

# 恩賜賞は長野氏

## 学士院賞に10氏



長野 真氏

日本学術(有原内閣賞)は十二回授けられ、学術の分野でわが国最優秀の研究業績をあげた九位、十位の研究に対し、第七十一回(五十六年度)の日本学術院賞を贈るとを決定した。このうち、がんやウイルス性肝炎などの治療に効くといわれ、最近大きな期待が寄せられているインターフェロンの発見者である長野真一・東大名誉教授は、おぼろげに感服が贈られた。

新事実の発見者として歴史に名前を残すまでにはなえず、運不運の差もつてゐる。長野真一氏の場合もその典型。インターフェロンの発見は一九五七年、発見者当時、キリシタンリック・フサイクス・シリン・フリン・フリン・フリン・フリンといふことが、なが、あは、その三年前、長野真一が「ウイルス抑制剤」にたいして論文を発表していた。



岡 小天氏



前田 陽一氏



横山 泉氏



小川 信氏



松井 正直氏



木下 彰氏



森 謙治氏



所 三男氏



名取 礼二氏

これは健康と恩賜の花びら、日本学術院賞には健康、賞はいと黄金(一件につき五十万)が授けられる。受賞者で長野真一氏は次の通り。

◆「インターフェロンの研究」  
国立相模原病院研究部顧問・東大名誉教授 長野真一氏(ながのまこと) 69歳。生体における抗ウイルス免疫の研究中に、ウイルスに感染した組織にはウイルス抑制因子のちにインターフェロンの存在が認められた。

◆「パスカル」  
国立相模原病院研究部顧問・東大名誉教授 前田陽一氏(まえだひょういち) 68歳。前田氏書き加えなかが、パスカルの「パスカル」の自筆原稿を複製したと名付けた結晶的

な解読方法で、第一種二種を競み分けることに成功。「パスカル」を「異文化」を「新」の「新」として世界的に有名なものとした。

◆「足利一門守護発展史の研究」  
国立学芸院学芸員 小川信一氏(おがわのぶひこ) 60歳。足利一門の守護発展史を研究した。足利一門の守護発展史を研究した。

◆「近世林業史の研究」  
徳川林業研究所所長 所三男氏(ところさん) 60歳。五百年の林業史を研究した。

◆「動物レオンの理論的研究」  
国立動物園動物学研究所 岡小天氏(おかのてん) 67歳。動物園内の雄力や雌力の分布、血液の流れる方向、動物の行動の関係を調べ、動物園の管理に役立つ。動物園の管理に役立つ。

◆「重力量測の分布から見た火山の構造」  
北北大学教授 横山泉氏(よこやまのいずみ) 67歳。精密な力量測定の結果、火山の構造を明らかにした。

## 定説より三年早かった インターフェロン発見

長野真一がインターフェロンの存在を証明したのは一九五七年、その三年前、長野真一が「ウイルス抑制剤」にたいして論文を発表していた。これが、なが、あは、その三年前、長野真一が「ウイルス抑制剤」にたいして論文を発表していた。

「私のこの論文で、インターフェロンの存在を証明した。これが、なが、あは、その三年前、長野真一が「ウイルス抑制剤」にたいして論文を発表していた。これが、なが、あは、その三年前、長野真一が「ウイルス抑制剤」にたいして論文を発表していた。

「私のこの論文で、インターフェロンの存在を証明した。これが、なが、あは、その三年前、長野真一が「ウイルス抑制剤」にたいして論文を発表していた。これが、なが、あは、その三年前、長野真一が「ウイルス抑制剤」にたいして論文を発表していた。